

2024年9月14日

# 地域課題解決へと向かう教育者を育てる教育 心理学者の七転八起:

準正課プロジェクトにおいて学生のエージェンシーを引き出すには

## 企画趣旨



資料はこちらから  
ダウンロード



# 教員養成課程の課題

- 正課の充実
  - 必要な知識・技能・態度・能力をすべて網羅
  - 網羅主義の危険性 (Wiggins & McTighe, 2005)
    - 「余白」が持つ豊富な機能 ・ 実地経験 (応用) からわかる基礎の意義
- 今の教育現場への適応に焦点化
  - 今の大人が大学生のこれからを予測し、教育課程で知識・スキルを十全に用意することは本来困難 (Dewey)
    - 大人が大学生の周囲で常に実験的に取り組み、参加可能な環境を用意
  - 汎用の問題解決能力そのものを身につけることが必要
    - 教育者に必要な素養を予め身につけさせて送り出すというよりは、常に教育実践が生活の中心にあることが大事
    - 大学教員は就職後に実践力とマネジメント力を高めることが必要
- 本シンポジウムを通して検討していく問い
  - 大学生はどのような学習環境下でプロジェクトを主導していくようになるのか
  - その過程はどのようにモデル化していくことができるか

# 今回の登壇者

- 企画・話題提供：野中陽一郎 先生（高知大学）
- 企画・話題提供：三和秀平 先生（信州大学）
- 企画・司会：坪田 康 先生（京都工芸繊維大学）
- 指定討論：藤江康彦 先生（東京大学）
- 指定討論：古村健太郎 先生（弘前大学）
- 企画・話題提供：富田英司（愛媛大学）

2024年9月14日

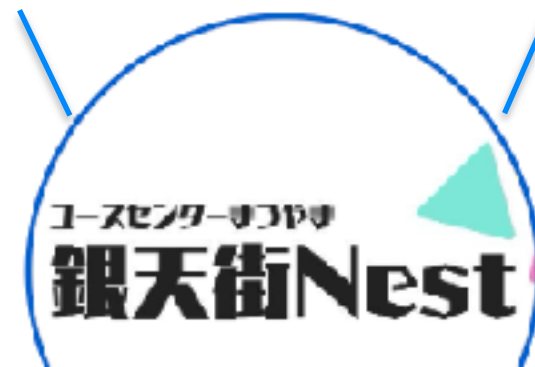
地域課題解決へと向かう教育者を育てる教育心理学者の七転八起：  
準正課プロジェクトにおいて学生のエージェンシーを引き出すには

学生をフローへと招き入れるサポート体制とは

富田英司

# 自己紹介

- 富田英司（とみだえいじ）
  - 愛媛大学教育学部
    - 大学院教育学研究科心理発達臨床専攻
    - 大学院地域レジリエンス学環
  - フィリピン大学ロスバニョス校非常勤教授
- 現在の研究テーマ
  - 学習環境デザイン（特に概念型探究）
  - 青少年主導参加型アクション・リサーチ
  - マイクロクレデンシャル
- 地域連携等
  - 愛媛大学放課後SDGs
    - 愛媛大学ミュージアム企画展示
  - 愛大ゲームラボ（旧・愛大マイクラ）
  - 愛媛大学おんがくクラブ
  - 愛媛チャイルドサポート（Eスポーツ）
  - 国際交流：フィリピン、アメリカ、インドネシア、シンガポール
  - その他、地域の公民館活動やNPO法人などと適宜連携しながらイベント展開



# 当研究室に関連した 実践研究の展開履歴

- 当初は個別の支援活動としてスタート
- 次に研究室のゼミ生を中心にした放課後学習教室の運営
- その後、放課後学習教室はゼミ生＋アルファのゆるいコミュニティで運営（現在も継続中）
- オンラインの遊び環境確保
  - イベント開催から居場所構築へ移行
- 予算獲得による学生に依存しない運営体制の確立
- プロジェクトの地域展開へ

時間の流れ

2013

附属中個別支援

2016

放課後学習教室

2017

愛媛大学放課後学習教室

算数

外国語

etc

科研費

愛媛大学放課後学習教室

中等理科

外国語

科研費

愛大Minecraft

マツダ財団研究助成

附属小・土曜学習

SDGsプロジェクト  
文科省学力向上委託事業

砥部町・子育て支援課とのコラボ

放課後SDGs

ユネスコ活動費補助金

(財)

愛媛

デジ女プロジェクトとのコラボ

NPO

ユースセンター  
松山とのコラボ

コロナ禍

現  
行  
科  
研  
費

# 話題提供の骨子

問い：学生のエージェンシーが発揮できる環境とは

1. 愛媛大学での取り組みの概要
2. ALACTプロセスを通じた活動体制の変化
3. 香川大学Steeepの事例
4. まとめ

# 自律学習定着 院生らが支援

愛媛大(松山市)は20日、松山市文京町の東雲小学校と同市道後橋又の同大職員会館で、同校の3、4年生を対象にした放課後学習教室を始め、児童の自律的な学習習慣の定着をサポートするとともに、学生の研究につなげる試みで、将来的には同校区外からも受け入れを目指す。

同大教育学部の富田英司准教授(41)「教育心理学」の研究室では2017年7月から、大学院生らが論文研究の一環で同校の東雲児童クラブに通う3回ほど計画

学習支援を実施。クラブの施設環境や指導方針などの制約があるため、研究を進めやすいように自分たちで放課後学習教室を開くことにした。

教室は「自律的な学習者をつくる教室」をテーマに、3年生対象の苦手克服コース(定員5人)、4、5年生対象の目標設定コース(6人)、3、5年生対象の目標コース(10、15人程度)を設けた。週2、3回開く。学習支援には大学院生と学部生計約20人が携わり、児童の理解度を学生

## 愛媛大・きょうから 東雲小児童に放課後教室



放課後学習教室の開催に向け準備を進める(左から)井上拓哉さん、市本早希さん、富田英司准教授、中野智晶さん＝19日午後、松山市文京町

1人が指導する。若手克服コースを担当する中野智晶さん(21)「教育心理学4年」は算数の文章題「ふつつかつた時に自分で解決

を伴い、児童が宿題理解や計算のどこでつまづいているかを分析。「児童が壁に

増やす計画を立てた。 1 担当本副理事長は15日午後、松山市

放課後学習の支援を  
研究室で始めたのは  
2016年から



No. **スマイル!ピント**

Date



ジュニアえひめ新聞

第305号

4・5 個性豊かな世界の食卓

③ 優雅さ追求「バレエ男子」

⑧ ヒメ 歯科検診の結果は…



本文新聞部 〒790-0511 愛媛県松山市番町1-11-1 ☎099-993-2111




日本語学び  
学校楽しく

愛媛大「言葉」教室 外国人児童 熱心に

放課後学習教室・言葉教室の一コマ：  
当時リーダーのOさんはDifferentiated Instructionを研究



放課後学習教室・言葉教室の一コマ：  
物語の展開をビジュアルで理解するためのワークシート



放課後学習教室・言葉教室の一コマ：  
読んだ本を元に絵を描くワークシート



学生ボランティア

大募集!!

# 家族と地域で楽しむ マイクラフト



## 参加資格

- ・ゲーム経験がなくても大丈夫
- ・子どもと共に成長することに関心を持っていること



## 条件等

- ・自宅や大学からご自身のパソコンをインターネットにつないで参加できること
- ・平日4～6時に活動
- ・週におよそ2回以上参加できること
- ・時期:2021年1月より準備を開始
- ・途中でやめても可

連絡先:愛媛大学教育学部  
准教授 富田 英司

E-mail [tomida@ehime-u.ac.jp](mailto:tomida@ehime-u.ac.jp)



## 活動内容

- ・マイクラフトというゲームを使って子どもたちの遊びをサポートします
- ・曜日ごとにクイズ大会、宝探し、建築ワークショップ、仮想外国などのイベントを設定しています
- ・学生発案のイベントを募集しています



## 応募方法

こちらのQRコードまたは短縮URLからご応募ください。



[bit.ly/2IAmVCl](https://bit.ly/2IAmVCl)

# 遊びから本格的な学びへの接続

入力A	入力B	があるか	出力O
		ない	
		ある	
		ある	
		ある	

図2 AND回路の反応まとめ



愛媛大学放課後学習教室

レッドストーン教室（2021-2022）

- 対象は小学校高学年、完全リモート
- マインクラフトのレッドストーンと呼ばれるものを使って、論理回路を学ぶ
- 参加者はDiscordという音声通話アプリを使ってカメラオフにて参加

# 砥部町・子育て支援課とのコラボ（2022）

## リアル版 第2弾 愛大MINECRAFT

マイクラが好きな子！  
ご参加お待ちしております♪  
見学だけの参加もオーケー

第2回開催の日時：

12月10日(土) 13:30～16:30

会場：麻生児童館

対象：砥部町在住の小学生

※見学はどなたでも可(住所・年齢不問)

お申し込み不要、持ち物：水筒

# 2022年12月10日のタイムテーブル

時間	内容	担当者
1 時間目 13:40-14:10	はじめてのJAVA版マイ ンクラフト：	● 司会進行：川本 ● ディスコード担当：玉井
2 時間目 14:20-15:00	クリエイティブ： 会場で建築クイズ	● 司会進行：川本 ● サポート：玉井 ● ディスコード担当：川上
3 時間目 15:05-15:45	弓PvP（たたかい）： 会場がすでにある チェスト、弓の打ち方、 4人ずつで対戦	● 司会進行：川上 ● ディスコード担当：富田
4 時間目 15:50-16:30	サバイバル： 洞窟で敵を倒しつつ宝 石を集める	● 司会進行：玉井 ● ディスコード担当：坪田
片付け		







# そして地域への本格移行

- 地域で新しくオープンする子ども食堂さんと一緒にスタートを盛り上げていけることに
- JAVA版マイクラがインストールされたノートPC10台を常置させていただき、毎週金曜夕方は小学生が集まってゲーム大会
  - 愛大ゲームラボ：学生がユースセンター主と相談して、いろいろな企画を展開



# 愛媛大学おんがくくらぶ

- 吹奏楽など音楽経験者がゆるく音楽などを楽しめる場
- 同じユースセンターまつやまで開催
- 実は臨床心理学的なアクション・リサーチ



# 愛媛大学放課後SDGs



令和3・4年度 文部科学省学力向上のための基盤づくりに関する調査研究  
令和5年度 文部科学省ユネスコ活動費補助金  
(SDGs達成の担い手育成 (ESD) 推進事業)

令和6年度  
愛媛大学放課後SDGs教室・ワークショップ

## アップサイクルで起業体験！ 「子どもSDGsカンパニー」 子ども社員募集のお知らせ



SDGsカンパニーで製作し  
校内で開催されたSDGsク  
した。

いま子どもたちは学校でSDGsのことを学び、地域の  
いろいろな課題に興味をもっています。「子どもSDGs  
カンパニー」では、その興味をアクションへと結びつ  
け、21世紀型の学力へと高めることができます。

今回は、子どもたちが会社のような活動を通して、  
不用品を商品にアップサイクルし、様々なイベントで  
販売するという計画です。

令和  
文  
E



令和6年度はそれに加えて、県内各所のミュージアム  
と連携しながら、子ども中心に愛大ミュージアムでの展  
示企画を考えていく予定です。出展を重ねお客さんに商  
品を見たり買ってもらったりすることで、フィードバック  
をもらいながらよりよいものを作っていきます。

〒791-8587 愛媛県松山市  
教室・オープンラボ教室

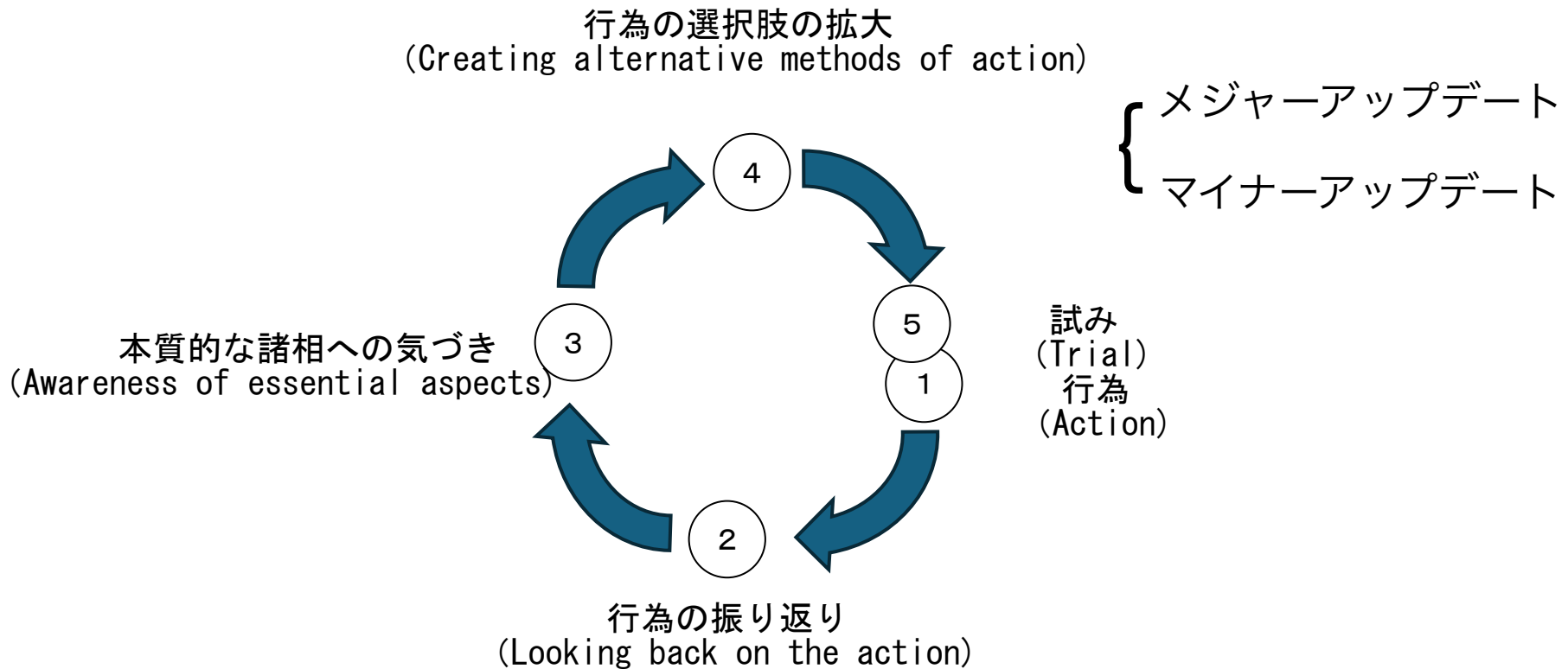
QRコードからどうぞ



ehime-u.ac.jp



# コルトハーヘンのALACTモデル



コルトハーヘン『教師教育学』（2010, p. 54）に掲載

# 放課後学習教室におけるALACTプロセス

1. 学生のイニシアチブを重視しながら安全面をフォロー
2. 縦よりも横の関係でマネジメント
3. 大学教員の役割の再定義
4. 参加枠組の個別最適化
5. 大学生の役割の再定義

## 放課後SDGsにおけるALACTプロセス：

### ① 学生のイニシアチブを重視しながら安全面をフォロー

- **Before** 研究室のゼミ生の取り組みが中心
  - 企画、運営、毎回の省察、それらをゼミの時間を中心に一緒に検討
  - 必要に応じて、日帰り合宿や研修なども実施
    - 運営のための基礎体力やノウハウがある程度蓄積するためには必須
    - しかし、1つのプログラムしか展開できず、ゼミ生それぞれがリーダーとして展開したい場合には不向きな運営体制
- **After** 学生の考えたことをできるだけそのまま展開、ゼミ生以外も参加可
  - 放課後教室のプログラム案を広く企画を学生に募集
    - A4一枚程度の企画書+メンバーリストの提出を求める
    - 誰が責任者が不明確で運営に必要なリソースが無い場合のみお断り
  - できるだけ内容には意見をしない
  - 安全確保のための手続きを明確化し、その遵守や連絡体制の明確化のみに介入
  - 活動のモニタリングは常におこない、学生の相談に常に乗れる体制を作る



# 放課後SDGsにおけるALACTプロセス： ②縦よりも横の関係でマネジメント

- **Before** : 縦の関係でマネジメント
  - 当初は学生代表が各放課後学習教室の下位グループに連絡を取っていた
  - 学生代表への業務集中が問題
- **After** : 横の関係でマネジメント
  - 各グループと窓口教員の横並びの関係へ

# 放課後SDGsにおけるALACTプロセス：

## ③ 大学教員の役割の再定義

- **Before** : 口だけの指導
  - 窓口教員は学生活動へのコンサルテーション
  - 窓口教員自身が教師役や授業設計はしない
- **After** : 自分もプロジェクトリーダー
  - 教員自身も獲得した資金のねらいに応じたプログラムを企画し、学生やスタッフとともに授業者としても参画

# 放課後SDGsにおけるALACTプロセス：

## ④参加枠組の個別最適化

- **Before** 学生のみチーム体制
  - 実習や体調不良、スケジュールリングミス等、安定した運営への不安→調整コストの増大
- **After** 予算獲得によるスタッフの確保
  - 研究補助員（非常勤職員）が年間を通じて支援
  - 学生もアルバイト参加可能（学生補助員）
  - 参加枠組：地域連携実習、学生補助員、研究補助員、卒論・修論生、学外ボランティア、隣接学校教員、大学教員（複数）
    - これらによって全世代が集う場として機能
    - しかし、これが学生のエージェンシーを妨げている可能性も十分ありうるし、予算確保可能な大きなプロジェクトにのみ有効

# 放課後SDGsにおけるALACTプロセス：

## ⑤大学生の役割の再定義

- **Before** 「子どもたちを導く」 先生的な人
  - 子どもに向かい合う
  - 子どもは課題に向かい合う責任者
    - このあり方は動機づけと能力が安定的に極めて高い場合にのみ成り立つ
- **After** 「子どもたちと一緒に作る」 お兄さんお姉さん
  - 子どもと一緒に課題に取り組む
  - 子どもは年長者の姿を見て取り組むので、取り組み内容を選択できるし、やり方がわかる
    - 「正統的周辺参加」と同じではないが、同様の透明性

## 発表者によるリフレクション（1/3ページ）

- 2次会でも話題にさせていただいたのですが、ここ4年ほど「子ども中心のSDGs活動（特にここ1年半はプラスチック廃材のアップサイクル）」に取り組んでおりまして、その中で「子どもが主体的」というのはどういうことかというのをずっと悩んでました。以下のようなことが実際に私どもが見てきたことです。
  - 子どもはあるテーマに対して興味を継続的に持つことはある
  - 子どもは（上のテーマとは別に）その時々に関心を持ったものに吸い寄せられる
  - 長期的な目標のために今日は何をしないといけないかという抑制的なプラン立案やその履行によってやる気は下がる
  - 手続きが煩雑だったり込み入ったことが生じると動機づけを下げってしまう子どもは多い
  - 自分が作ったものや考えたものを（特にクラスの友達ですが）みんなから評価されると動機づけが爆上がり
  - 目の前の材料や道具だけでできるできないを判断して、「こんな道具がほしいから、どうやったら手に入るだろう」「材料を集めるためにこんな催しをしよう」というような準備段階まで遡って間接的な取組が必要だという認識には至りにくい

## 発表者によるリフレクション（2/3ページ）

- 書き出してみると大人もそうかもと思いますが、昨年度までは上のようなことがあるので、なかなか「子どもが主体的」と言っても、子どもの動機づけをどう継続させるかとか、子どもから発案してもらうためにはどうしたらよいかなどについて、私自身どう解決したらよいか見えておりませんでした。で、今年度になって、ふと子どもたちとの活動中に気がついたのですが、サポートで入ってくれている学生たちが子ども一人ひとりに向き合っているのです。。。普通ならそれはいいことですが、子ども自身は何を作ったらいいのかわからないと言ったりして、割と時間を持て余してそうにこちらからは見えませんでした。その時にずっと子どもと向き合っています。また、その隣では、子どもが制作しているものにじっと注目して寄り添っている学生の姿が。。。これらどちらも子どもにとってほとんどなさないように見えませんでした。そこで、大学生の皆さんにお願いしたのが、「子どもに寄り添うのではなくて、子どもと同じように自分がつくりたいものを作ってほしい」ということでした。また、「活動の最初に子どもたちと何をするか決めるのではなくて、四時半になって活動時間が開始される以前に、大学生は自分の作りたいものを作るようにしてほしい」とお願いしました。今年度はたまたまアップサイクルの工作自体に興味がある学生が何人もいたので可能でした。

## 発表者によるリフレクション（3/3ページ）

- その結果、ここ2か月くらいは子どもたちが大学生の作る様子を見て、自分たちで作りたいものを見つけ自分なりに工夫するとか分業するとかということが起こってきました。相変わらずせっかく大学に来ているのにタイピングアプリでしばらくは遊んでいるのですが、ほっておくと工作している場所に来るようになったので、ゲームはもうおしまい！っというような声掛けが減りました。まさに〇〇先生がご指摘されるような、個の主体を考えるときに一緒に集団や社会の構造のあり方を考察し、創発的プロセスとしてエージェンシーをとらえようという主張と符号すると思いました。

# Steeep ショック



# 香川大学 SteepPの事例検討

昨年度3月に訪問して幹部学生と窓口の先生にインタビュー

steep.kagawa

Follow



734 posts

1,011 followers

519 following

香川大学 学生ESDプロジェクト SteepP(ステップ)

様々な#環境問題 について取り組んでいる

#香川大学 のプロジェクトです🌍💚

#sdgs や#esd に沿って活動やイベント開催をしています！

メンバーと一緒に活動していただける団体さん

ぜひご連絡ください☺

#春から香大 #春から香川大学 #春から香大生

📍 [twitter.com/Steep2?t=v2dPdX-S\\_0qGb-MzBW5egw&s=09](https://twitter.com/Steep2?t=v2dPdX-S_0qGb-MzBW5egw&s=09)

Followed by tomidalabeu and nemunokisyokudou



# September

香川大学学生 ESD プロジェクト SteeeP

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	3	4	5	6	7
	・幹部 mtg 21:00~		全国まちづくり カレッジ in 伊勢	全国まちづくり カレッジ in 伊勢 ・全体 mtg お休み		学生推進員 研修 in 高知
8	9	10	11	12	13	14
学生推進員 研修 in 高知	学生推進員 研修 in 高知 ・幹部 mtg 21:00~			・全体 mtg 10:30~ (オンライン)		
15	16	17	18	19	20	21
	・ユニバーサルサ ミット TAKAMATSU ・幹部 mtg 21:00~			・夢プロ自主交 流会 ・丸亀城西高 校交流会 ・全体 mtg 10:30~ (オンライン)		
22	23	24	25	26	27	28
	・幹部 mtg 21:00~			・全体 mtg 10:30~ (対面)		・フードライブ in 多肥 ・海ごみイベント in 満生海岸
29	30					
	・幹部 mtg 21:00~					



steEEP.kagawa • Follow



steEEP.kagawa 【9月の活動予定】

こんばんは🌙  
香川大学学生ESDプロジェクト SteeePです👋  
9月の活動予定が決定しました👏

今月も先月に引き続き夏休みに入っています🌞🌿  
🍷👏

今月はSteEEPの柱のひとつである『海ごみイベ  
ント』の実施を予定しています👏👤ご参加をお  
待ちしております🍷

後期に向けて各班でイベントや予定を確認しなが  
ら楽しく頑張りたいと思います🍷

今月もSteEEPをよろしくお願ひいたします。

#香川県 #香川大学 #香川大学 #香川大学学生  
ESDプロジェクトSteEEP #香川大学学生esdプロ  
ジェクトsteEEP #春から香大 #春から香川大学  
#SDGs #環境問題 #持続可能な生活 #持続可能な  
暮らし #フードライブ活動 #企業取材 #プロジ  
ェクト #esd

1w See translation



Liked by denkidaino\_madoguchi and others

September 1



Add a comment...

Post

# 香川大学 SteeePの特徴

- 参加者
  - 全学部から1年生より参加。窓口教員のゼミでもなく、サークルもあり、バイトもある学生がほとんど。昨年度卒業生までは低迷していたが、今は1学年20名以上。
- 活動内容
  - 食ロス班：フードドライブの開催等
  - 海ごみ班：ビーチクリーニングや啓発活動イベント開催等
  - 環境教育班：子ども向けワークショップ（アップサイクル等）の開催
  - 取材班：SDGsに取り組む企業団体への取材・紹介資料出版
- 運営体制
  - 窓口教員、幹部学生、一般学生
  - 2回生と1回生がペアになって活動する制度を学生が考案して展開
  - 毎週、月曜夜に全体ミーティング、その後幹部ミーティング
  - 打ち合わせには窓口教員はほとんど参加
- 学生のエージェンシー発揮の機会
  - 学内外への資金への応募
  - SNS（Facebook, instagram, X）への定期的な記事展開
  - 企業やマスコミ、事務職員とのやりとりもほとんどは学生が担当
  - 幹部学生は投票による互選、選ばれた学生は選ばれて喜ぶ
- 学生の顔が全面に見える活動
  - 窓口教員ではなく、学生への取材依頼がほとんど

# まとめ①

- 本シンポジウムの問い
  - 大学生はどのような学習環境下でプロジェクトを主導していくようになるのか
- 本話題提供における答え
  - 学生はそれぞれ持つ個別のニーズや動機、能力を活かせる環境において最大限の能力を発揮することができる
  - 大学教員等を通して利用可能なリソース（人脈、場所、機材、予算、情報、個別最適な教育機会等）の多様さと豊富さが広がることによって、学生のニーズや動機に合致した実践プロジェクトに出会うことができる
  - 大学教員自身が地域プロジェクトを展開しながら、学生と並走し、学生を必要に応じて助けを提供することが大事

# まとめ②

- エージェンシーを発揮する学習環境を用意するには
  - エージェンシーを発揮した学生の成果をどう顕在化させるか
    - 準正課のアウトカムを学生本人が次にどう活かせるか
- エージェンシー発揮のための基盤が弱体化している学生への  
スキャフォールディング
  - どんなプログラム内容をどのような形式で提供するか
  - どのような手法でスキルや態度、経験を視覚化するか
    - マイクロクレデンシャルやデジタルバッジの出番
- 正課との整合性をどうつけていくか
  - 学生にとっての機会を特定のゼミ等に閉じ込めないことが重要
  - 学生と地域展開する文化を大学教員間にどう育てるか

世界中で模索される子どもと大人の連携手法：  
**青少年主導プログラム**  
Youth-led Program



Tri-County Youth Services Bureau

# 地域問題に対する新しいアプローチ： 青少年主導プログラム（Youth-led Program）

- 青少年主導プログラムが扱う問題
  - 地域交流, 都市計画, 人身売買, 児童労働, 地域格差, 差別, 生徒指導上の問題（薬物依存, 暴力, いじめ, 妊娠）, 環境問題, 公衆衛生
- 青少年主導プログラムの考え方
  - 問題の当事者である青少年こそが問題改善の鍵となる「活きた経験」を持っている
    - 従来, 問題の当事者は「弱者」や「支援対象」
  - 問題の当事者は, 地域の人々, 教育者・研究者と連携することで, 居場所を得るだけでなく, 仲間と協力して現状を変える力を身につけ, 主体的に生きられるようになる
    - 協働する力や現状を把握・分析し, 問題解決する力は真の学力そのもの
  - 地域の大人が子どもを尊重し, 同じ市民として, お互いを信頼し, 活かしあう方法を学ぶことで, 子どもも大人も幸せに暮らせることができる
  - 地域の問題が実際に改善される

# Youth-led Participatory Action Research

- 目的：青少年のポジティブな育成
- 研究：青少年が自分たちの問題意識に基づいて研究テーマを設定
- 展開：データを収集・分析・発表することによって、社会をより良い場へと変える
- 教育者の役割：
  - 研究方法を支援する
  - 協働研究者としてプロジェクトを展開する
  - 社会と青少年を結びつける
  - チーム・ビルディングを支援する